

評議員会議事録

日 時：2004年9月22日(水)12:00～13:10

場 所：岩手大学上田キャンパス学生センター棟4階会議室1

出席者：井上，太田，海部，加藤，小山，須藤，千田，高原，福井，安東，家，
池内，梅村，大橋，小杉，佐藤，観山，山本 以上18名

欠席者：なし

有効委任状提出者：岡村，柴田，高橋，舞原，牧島，吉井，谷口 以上7名

ほかに理事会から，松田，祖父江，若松，杉山，郷田，関井，松原，土居，及び東條事務長
が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した。

議 長：観山正見

署名人：井上 一，高原文郎

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年7月10日)の評議員会議事録が報告され，承認された。

2. 開催中の年会について

開催中の年会について，土居理事より報告があった。講演数は申し込み616件，ポスト
デッドライン2件と過去最高であり，参加者もここまでで750名と過去最高に迫る見通し
である。その他，企画セッション，記者会見などの基本事項について報告があった。続
いて郷田理事より，『プラザおでっ』で行われた公開講演会について報告があった。

3. 用語ファイルの使用許諾について(資料2)

科学技術振興機構 (JST) で開発中の新索引システム(有償)に搭載するJST大規模辞書に
天文用語集のデータを使用したい，という打診が天文学会に対してあり，天文教材委員
会で検討した結果，有償で使用許諾を与えることにしたとの報告が，杉山理事よりあっ
た。内容の更新を行うべきであるとの意見が太田評議員より出された。更新については
天文教材委員会でも検討中とのことである。

4. 消費税について(資料3)

関井理事より，2000～2001年度に欧文研究報告からの収入が急増したことなどから，
2002年度，2003年度に関して消費税納入義務が生じていたことを見落とし，納税して
いなかったことが判明し，修正申告を行った経緯について説明があった。今後は簡易課
税制度を採用することで，納税額を約半額に抑えられるとのことである。

5. その他

(1) 2005世界物理年日本委員会参加について

松田理事長から，標記委員会への日本天文学会の参加について報告があった。国連
で承認されたアインシュタインを記念する国際物理年(2005年)を記念して，物理オ
リンピックの国内大会に対応する物理チャレンジを行うことなどを中心とした各種
イベントの開催，講師派遣などが考えられている。中心となる学会，団体は，日本
物理学会，日本応用物理学会，日本天文学会，生物物理学会，物理教育学会などで
ある。大橋評議員(日本物理学会理事)が，物理学会からの視点を交えて補足説明
し，意見交換を行った。

(2) 資料 役員・委員等一覧(資料4)，正会員年齢分布図(資料5)

標記資料について杉山理事より紹介があった。

(3) ペルー電波望遠鏡支援のお願いについて

会員の Jose Ishitsuka 氏が中心となってペルーに新設する電波望遠鏡の初期運用経費が不足している。その不足分を補う目的で、日本国内で募金活動がすでに行われているが、天文学会としてもこの募金活動を積極的に支援していくことが理事会で決定された。以上の経緯について杉山理事から報告があり、続いて海部評議員(国立天文台長)から補足説明があった。評議員会としても、積極的に支援することとなった。

(4) 2005年度内地留学奨学生選考結果について

来年度の採用が決定した奨学生2名について、内地留学奨学生選考委員会西村委員長の代理として杉山理事から報告があった。

議 題

1. 初等・中等の理科教育について(資料6)

杉山理事より理事会での取り組み方針について報告があった。開催中の年会に先立って行われた縣氏の記者発表がメディアで話題となっている折でもあり、早急に理事長、副理事長が中心となって声明をまとめること、初等・中等の理科教育全般については、問題の洗い出し、解決へ向けての提言などの具体的な取り組み方針をまとめることを主な任務とする理事長の諮問委員会(仮称：教育懇談会)を設置することという基本方針である。意見交換の結果、大筋としてこの基本方針は承認されたが、意見交換の中で、教育懇談会の人選が重要であること、天文学会のみには閉じるのではなく他の関連団体の専門家や、初等・中等教育の現場をよく知る人を招くことを考慮すべきであるとの指摘があった。また、教育懇談会の方向性、最終的なまとめ方をどのように考えているのかという質問があり、まずは問題点の洗い出しをして、方向性を考えていくこととなった。

2. その他

(1) 科学振興財団への推薦について(資料7)

元理事長古在氏より、各種の学術賞について日本天文学会の推薦が少ない現状に対して理事会の対応を要望する書面が理事長宛に届いたことが杉山理事より報告された。理事会では、林忠四郎賞選考委員会に学会推薦を依頼するという対応が検討されたとの報告であったが、あまり安易に他の目的の委員会を使うべきではないとの意見が出され、賞ごとに推薦委員会を作る可能性などについても意見が出され、次回理事会、評議員会での検討課題となった。

(2) 欧文研究報告について

欧文研究報告の予算を節約するために、ページ当たりの情報量を増加することが可能かどうか編集委員会で検討を行った結果について、蜂巢編集委員長の代理として杉山理事より報告があった。現在のレターサイズの印刷領域からA4へ変更を行うことで、フォントの大きさを保ったまま1ページ当たり12%増加できるとのことである。体裁が悪くなる可能性についての懸念が表明された。次に、欧文研究報告を半額化、無料化をした場合について、天文学会の負担分の試算が紹介された。ページ数が増加しなければ、半額で281.2万円、無料化で577.2万円の新たな負担が生じる。今後さらに検討することとなった。

(3) 次回の日程

次回の評議員会は、1月22日(土)、国立天文台で行うことを確認した。

